

『関西大学経済論集』執筆要領

2015年6月15日 改訂

第65巻第2号より執行

1. 原稿は電子文字による邦文原稿とし、横書きとします。
2. ご使用のソフト名を明示した電子ファイルおよび紙原稿を、編集担当者もしくは経済学会事務室に提出して下さい。なお、それ以外の場合は編集担当者にご相談下さい。
3. 校正については、3校までとします。なお、WEB校正も可能ですが、その場合にはその旨をお伝え下さい。
4. 原稿の表紙に題名・欧文タイトルおよび執筆者名を記入して下さい。また、「論文」・「研究ノート」・「調査」・「資料」・「学界展望」・「書評」および「新刊紹介」のいずれに属するかを表紙の左上に記入して下さい。なお、編集上、提出原稿が掲載できない場合があります。
5. 原稿の最大限字数については、次の目安を守って下さい。
「論文」・「研究ノート」・「調査」・「資料」は、日本語の場合には40,000字、英語の場合には13,000単語以内、「学界展望」・「書評」および「新刊紹介」は、日本語の場合には10,000字、英語の場合には3,000単語以内とします。なお、図表は本誌掲載例から、上記目安に含めるものとします。また刷り上がり体裁を考慮して、図表の数と大きさは可能な限り縮減して下さい。
6. 文章表現については、現代かなづかいに統一し、なるべく当用漢字の使用を守って下さい。
7. 数字を用いる場合には、十、拾、百、千等はアラビア数字の10、100、1000等に統一して下さい。(例：2008年、第58巻第1号等)
8. 活字の大きさは次の通りです。

	論文・研究ノート	資料紹介・資料・ 学会展望	書 評	新刊紹介
題 名	16P	16P	(著者名)12P	(著者名) 12P
副 題	11P	11P	(書名)16P	(書名)16P
執筆者名	12P	12P	12P	12P
本 文	10P	9P	9P	9P
各節の題名 (数字はゴシ)	10.5P	10.5P	10P	10P
注 番 号	6P	6P	—	—
注・脚注	8P	8P	—	—

9. 論文・研究ノートについては、本文の冒頭に「要約」「キーワード」「経済学文献季報分類番号」を記入して下さい。これについては、既発行の『関西大学経済論集』を参照して下さい。
10. 参考文献は「文末」にまとめて下さい。
11. 「注」は原則として「文末」（参考文献の前）とします。「脚注」を希望される場合は、入稿の段階でその旨を指示して下さい。
12. 注番号はアラビア数字に統一し、通し番号で示して下さい。
13. 図表については、それを本文中に挿入していない場合には、本文の最後（参考文献の後）にまとめ、各図表が入る箇所をその都度本文中に必ず明記して下さい。
14. 欧文著者名、欧文雑誌名および図表、数式中の記号等はすべてイタリック体と指定して下さい。
15. *ebenda*, *ibid.*, *op. cit.*, 等もイタリック体と指定して下さい。そして、それが文頭に来る場合は *Ebenda*, *Ibid.*, と大文字にして下さい。
なお、Bibliography を作成する場合には、著者名は Marx, K., Keynes, J.M., そして、共著の場合は Marx, K. and J. M. Keynes, の形に統一して下さい。ただし、注に使用する場合には、K. Marx, J.M. Keynes, とし、*op. cit.*, 等と共に用いる場合は、Marx, *op. cit.*, Keynes, *op. cit.*, という形に統一して下さい。
16. 邦文著者名、雑誌名は『 』、論文等のタイトルは「 」で囲んで下さい。
17. 英文著者のページを示す p.ないし pp.は必ず小文字に、独文著書のページを示す S.は大文字に統一して下さい。複数でも SS.ではありません。（例：S.20~25）
ただし、引用ページが 2 グループ以上になる場合は SS.となります。（例：SS.5~8, 20~25）
18. 外来語については、必要以外はカタカナに統一して下さい。（独逸→ドイツ、頁→ページ）
19. 邦文著書の「書評」、「新刊紹介」は原稿末尾に当該書の発行所、発行年月（西暦）、判型、ページ数および定価をカッコ内に記入して下さい。
（例：岩波書店、2008年10月刊、A5判、x+300ページ、(本体価格)3,500円）
20. 抜刷は、単著共著にかかわらず、50部まで無料となります。50部を越える部数を必要とする場合は有料となります。その場合には、その旨を申し出て下さい。
21. 『関西大学経済論集』全体の体裁にかかわる事項については、形式上の変更をお願いする場合があります。